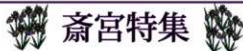


さいくうあと通信

発行 明和町 斎宮跡・文化観光課
 (明和町大字馬之上 945 番地)
 電話：0596-52-7126 FAX：0596-52-7133
 E-mail：saikuuato@town.mie-meiva.lg.jp



斎宮特集

明和町花 ノハナショウブ

明和町のシンボルカラー（イメージカラー）は何色かご存じですか？ちょうど今の時期になると斎王まつりののぼりが町内のあちらこちらに立っていますね、そう、紫色です。ではなぜ紫色なのでしょう。実はこの紫色は明和町の町花ノハナショウブの鮮やかな色をイメージしています。

ここで明和町とノハナショウブの歴史について触れていきたいと思えます。平安時代にはアヤメやノハナショウブを使い、根の長さを競い合うとともに和歌を詠み合う「ねあわせ根あわせ」という遊びがあり、斎王さまもこの遊びを楽しんだようです。江戸時代にはお伊勢参りに訪れた旅人たちが、ノハナショウブを楽しんだということが『伊勢参宮名所図会』などの文献からわかっています。そして昭和 11 年 12 月 16 日に斎宮のノハナショウブが平野に群生していることが珍しいために国の天然記念物に指定をされました。さらにそれをうけて、ノハナショウブの貴重性を認識し、町民の皆さんになじみ深くするために昭和 63 年 6 月 17 日に明和町の花に制定しました。江戸時代から明治時代にかけてはこの付近一帯にノハナショウブが群生しており、紫の雲がたなびいている様な美しい景色だったそうです。その当時に比べると数は随分減りましたが、現在でも約 3,000 株のノハナショウブが生息しています。

そしてもう一カ所、斎宮駅北側、いつきのみや歴史体験館の近く歴史口マン広場にも 10,000 株以上のノハナショウブが植栽されています。6 月前半にはいつきのみや花しょうぶフェアも開催されます。この歴史口マン広場から国の天然記念物斎宮のハナショウブ群落まで歩いておよそ 30 分と運動には最適の距離です。今年はぜひ明和町のシンボル、ノハナショウブを楽しみながらゆっくり斎宮を散策してみたいかがでしょうか。



アヤメ

見ごろ：4 月下旬～5 月中旬

<見分け方>

花びらに

網目模様



ノハナショウブ

見ごろ：5 月下旬～6 月中旬

<見分け方>

花びらに

黄色い目のような模様



斎宮のハナショウブ群落



身近な歴史 『源氏物語』に登場!!! 竹川の花園

『源氏物語』の中に明和町が出てくることはご存知でしょうか。『源氏物語』はよく知られているように約1000年前に紫式部によって書かれた長編小説です。物語後半の「竹川」の段で、登場人物が宴を行う場面がありますが、ここで、

竹河の 橋のつめなるや 橋のつめなるや 花園に はれ 花園に
めざしたぐ
我をば放てや 我をば放てや 少女伴へて

という歌が紹介されています。これは、「竹河(川)の橋のたもとにある花園に、私と少女と一緒に解き放っておくれ」という意味の歌です。この歌は「催馬楽」といって、宮廷で宴会などをする時に歌われた歌と考えられており、当時は有名な恋愛の歌だったようです。

この竹川の花園というと、今もまったく同じ地名が近鉄斎宮駅から漕代駅に向かうまでの田んぼに残っており、この歌の舞台になった場所だと考えられます。伝承では、花園には四季の花が植えられていたとされ、斎王さまも斎宮のすぐ西側にある花園に来て花を楽しまれたのかもしれませんが。

この花園の場所は、斎宮跡の中心がある台地からは低くなった部分にあたり、今も急な坂の下にあります。そこには田んぼが広がっており、昔ながらの田園風景が楽しめます。

ただ、約1000年前の平安時代はこのような風景ではなく、川にほど近い湿地のような状況だったと考えられます。そのため、草花が育ちやすくこの季節にはショウブも咲いていたと思います。それらを丘の上にある斎宮から見たら、素晴らしい風景だったことでしょう。

このような歴史が忘れられないように、大正15年に花園旧跡保存会によって花園の碑が建てられました。碑が建てられたのは竹川自治会の土地で、近鉄線が開通するまでは南の伊勢街道から碑のところまで行けたようです。

『源氏物語』を読みながら、約1000年前の平安時代から伝えられる地名を感じ、斎王さまも見られたであろう花園を想像して、王朝ロマンを感じてみませんか。



花園の碑とすぐ横を通る近鉄線

毎月10日、20日、30日は伊勢街道に行灯が並びます



竹川・金剛坂地区の伊勢街道沿いでは、住民のみなさんにより行灯が設置されています。

暗闇に浮かぶほのかな行灯の明かりに、街道の風情が感じられます。

